



CIGRE AORCソウル会議報告

系統運用部

国際大電力システム会議(以下CIGRE)の下部組織であるアジア・オセアニア地域会議(以下AORCという)の第5回会議が、本年5月韓国のソウルで開催された。本会議は、当社志賀顧問が委員長を務める日本CIGRE国内委員会(以下JNC)が事務局を行っており、JNC代表として志賀委員長、AORC担当幹事として系統運用部系統技術G松浦G長が参加した。また本会議の技術会議は系統保護(SC34)をテーマとしており、SC34日本国内分科会委員長である系統運用部系統技術G竹内課長が技術発表を実施するために参加した。

SC34のセッションテーマは「Modern Technique(最新技術)」であり、韓国から3件、日本から2件、合計5件の発表があった。当社からは竹内課長が、「Isolation and Restoration Policies against System Collapse」(系統崩壊に対する分離および復旧の考え方)を発表した。

これは当社松浦G長が主査、竹内課長が事務局としてまとめてきたCIGRE WG34.08の成果である。セッションにおいては活発な質疑応答があり、アジア・オセアニア地域の参加者が日本や韓国の技術に対し持っている関心の高さが感じられた。



中央の発表者が竹内課長(SC34セッションにて)

高村さんが博士号取得

エネルギー応用研究所 環境技術G 環境・リサイクルT

エネルギー応用研究所 環境技術グループの高村幸宏さんは、平成13年3月23日に静岡大学より博士号(工学)を授与されました。博士号は、研究などに関する論文を数多く発表し、独創的な業績をあげ、これらが学術・技術の進歩・発展に貢献したと認められて授与されるものです。

高村さんは入社以来、技術開発本部にて環境保全・廃棄物処理に関連した研究を進め、さらに、平成11年4月からは静岡大学大学院博士課程後期環境科学専攻に入学し、環境保全技術に関する研究を続けてきました。今回の博士授与も環境保全技術に関する研究成果をまとめた論文「乾式排ガス処理システムの工学的研究」が燃焼排ガス処理技術の高度化に寄与するものとして、多くの研究者から高い評価を得たためです。

高村さんは、「研究所配属から、長年にわたって携わってきた研究成果が評価され、それが学位授与に繋がったことが大変うれしく、今後の研究活動の励みにしていきたい。また、これまで携わってきた私の研究業務に指導・配慮いただいた技術開発本部のみなさまに感謝します。」とその喜びと感謝の気持ちを表しています。



竹内さんが博士号取得

エネルギー応用研究所 お客さま技術G 効率利用T

本店エネルギー応用研究所 お客さま技術グループの竹内章浩さんは、研究所業務と並行して、平成11年4月より東京工業大学 社会人ドクターコースに在籍し、平成14年3月26日に東京工業大学より博士号(工学)を授与されました。

竹内さんは、入社以来、高温加熱を用いた廃棄物処理に関する研究に従事しており、平成11年からは、高温に加熱した石灰などを利用して社内のハロンを分解処理する研究を行ってきました。これを「乾式熱分解法によるハロン処理に関する研究」と題する論文にまとめて発表しました。この論文に発表された研究成果は、ハロンの処理法としてばかりでなく、フロンの新しい処理法として評価され、また、塩化水素などの処理法としても注目されています。

竹内さんは、「エネルギー応用研究所、関係会社、共同研究先のみなさんなど多くの方々に研究面で協力していただき、また、家族からも生活面での協力をしてもらったことで論文をまとめることができ、学位が取得できたと思っています。今後は研究成果を、ハロンやフロンの分解処理装置の開発および実用化と展開し、当社のみならず地球環境の改善に貢献していきたいと思っています。」と、次のステップに眼を向けていました。

